

## 評価シート 様式

取組名	幻の都・恭仁京と名宝・加茂の三塔を活かした民学官による観光まちづくり		
実施団体名	木津川市地域公共交通総合連携協議会	対象地域	木津川市域(本年度における主たる対象地域は、加茂地域とする。)
(代表団体名)	木津川市	推薦団体名	

① 実施 状況	提案書に記載された取組内容について、当初の計画通り実施されているか	② 実施 体制	平成20年度に行われた取組の実施体制について
	<input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組を適切に実施したと判断される。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断される。
	<input checked="" type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部が未実施となっている。但し、予定した主要な取組は適切に実施したと判断される。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断されるものの、改善の余地が認められる。
	<input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部又は全部が未実施となっており、特に主要な取組が実施されていない。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、主体的に実施されたと判断できない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)
③ 効果	平成20年度に行われた取組の当初目標の達成状況について	④ 継続 展開 の見 込み	平成20年度に行われた取組の継続展開の見込みについて
	<input type="checkbox"/> 当初設定した目標を達成し、実施した取組が予定していた成果をあげたと認められる。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り又は発展的に継続展開が予定され、持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 当初設定した目標の達成には至らないものの、実施した取組が予定していた成果の一部又は全部をあげたと認められる。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画とは一部異なるものの、取組方法の改善等により持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。
	<input type="checkbox"/> 実施した取組が当初の目標の達成に至らず、予定していた成果をあげることができなかったと認められる。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り持続的・効果的に取組が進捗するとは見込まれない。
	(備考・特記事項)		(備考・特記事項)

※①において「申請時に予定した取組とは異なる取組が行われた」場合や、③において評価シート作成時点で成果を把握できない場合など、留意事項がある場合に「備考・特記事項」欄に記載する。

## 評価シート 様式

取組名	幻の都・恭仁京と名宝・加茂の三塔を活かした民学官による観光まちづくり		
実施団体名	木津川市地域公共交通総合連携協議会	対象地域	木津川市域(本年度における主たる対象地域は、加茂地域とする。)
(代表団体名)	木津川市	推薦団体名	

⑤ 総合評価	○ 複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果に関する所見
	○先導性・モデル性 コミュニティバス等の既存の交通体系を改良して、山間地における住民の利便性と活用が充分でなかった観光資源の掘り起こしを両立させるという点で、先導性・モデル性のある取組である。
	○ 評価
	<input type="checkbox"/> ①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」の全てにおいて評価が高く、「地方の元気再生事業」の趣旨に鑑みて優れた取組であると評価できる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であると評価できる。ただし、①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」のいずれかについて改善の余地が認められる。
<input type="checkbox"/> ①～④のうち1以上の項目で評価が低く、「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」においても特筆すべき点が認められず、「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であるとは評価できない。	
	(評価の考え方及び次年度以降に向けた所見)
	本取組は、コミュニティバス等の既存の交通体系を改良して、山間地における住民の利便性と活用が充分でなかった観光資源の掘り起こしを両立させるという点で地域活性化に寄与する取組であり、地域資源の掘り起こしによるバス乗客の増加を達成し、持続的取組に向けた成果が出つつある点が評価でき、利便性と採算性の観点からバスルートや料金設定の見直しを図り、本格的な事業化に向けた自治体と民間事業者による事業採算の検証に留意しつつ、地域資源のさらなる活用をふまえた地方の元気再生事業の支援継続により、今後の継続的な展開が期待できるものである。
	次年度以降の取組については、観光資源を認知してもらうための取組の強化と本年度実施できなかった観光閑散期のバスルートのあり方をふまえた検証を行い、通年での事業の持続可能性を検証することが必要である。
	具体的には、
	①観光資源の充実とまちの活性化については、本年度整理した地域資源のデータベースを活かし、事業者や観光ボランティア等、民間との連携を強化しながら、バス交通体系維持のベースとなる来街者の増加につながる取組みに絞り込んで実施する必要がある。②地域公共交通の充実については、本年度できなかった取組(閑散期の社会実験等)に絞り込んで実施すべきである。③関連事業との連携については、具体的な取組の効果が明らかでなく、独自の活動で取り組むべきである。